

F 建設候補地、概算事業費・予算及び施設内容に関するもの

1 寄せられたご意見

受付 No.	ご意見
34	先日（5/25）公聴会に参加し、意見を伝える機会があったが、改めて意見を述べたい。 建設の目的は概ね理解できたが、機能、場所、予算について再検討すべきと思う。 （新潟日報の掲載記事に関連して） 1. 機能については、図書館、公民館は老朽化しており建て替えは必要と考える。子供の交遊施設については一考の余地あり。 2. 場所については、嘉平山は利用者、特に中高生、シニア世代にとって遠すぎ。防犯上も問題。 歩いたり、自転車で気軽に行ける距離感であって欲しい。冬場は尚更、国道を跨いでの移動は困難さを伴うので、市街地にすべきと考える。旧町体、現公民館、中条中の脇あたりがいいのでは。 市役所、産文、中学、高校、駅の立地を踏まえ、その動線上がいい。利用者にとっても移動が楽で、市街地の活性化にもつながると思う。 3. 予算については、45 億円は高すぎる。建設費だけでなく、維持費も多大なものになると予想する。 規模を縮小して、よりコンパクトにし、将来の負担を軽減すべき。 市街地であれば、歩いたり自転車で行けるので、駐車場分もその分狭くていい。交流イベントや講演会等は産文の利活用や既存の公園を整備することでカバーできるのではと考える。 （糸魚川では、子育て複合施設の建設見送りとの報道あり） 立地場所が極めて重要、再優先課題であると考ええる。利用者にとって足を運び易く、市街地の活性化にもつながり、コスパ、タイパにも配慮して建設して欲しい。 「生活の音を感じられる街づくり。街に元気を！！」
38	1. 建設自体には反対はしない。 2. 胎内市の人口 2 万人位で 45 億円の費用を使って建設する意味が理解できない。 3. 理解できない理由として、胎内市は大きく分け、中条、築地、乙、黒川地区があり、中条内の市有地（通称：嘉平山）に建設すれば、多くの子供たちが車で送り迎えしない限り利用不可能である。 4. 建設しなければいけないのは理解もしているし、賛成であるので、1 カ所に集中ではなく、4 億円規模の施設を 6 カ所建設する方法が、各地域の住民の利便性向上になり、予算も半額ですむ。 5. 建設に対しワークショップで真摯な討論の結果を重々承知です。あれもこれも必要なことも分かりますが本当に必要？もう一度何のために、誰のために、いったい何を求めるのか考えていただきたい。
43	1 嘉平山の立地 （1）各年代の利用予測 1) 小学生が平日放課後自力で歩いて利用するには、学校から遠く無理がある。 2) 中学生も自力（徒歩・自転車）で利用するには、学校から遠く無理がある。平日の利用者は特定地域住民で限定的である。休日に自力で利用するにしても交通アクセスが悪いので利用は限定的になる。また十年後の統合中学校でも、乙・築地・黒川方面の生徒の利用は、親の送迎が望める休日以外は非常に少ないことは想像に難くない。統合中学校から徒歩圏内の立地であれば自習施設としてある程度の利用が考えられる。また、統合中学校の図書室とし図書館の統合も考えられる。 3) 中条高校は、少子化＋通学生の減少から持続可能性は非常に低いと想像される。また、中条高校及び開志国際高校の生徒とも胎内市民は限られているため、考慮する必要はあまりない。胎内市民の高校生の利用は下校時 J R 下車後ということになるので、嘉平山では利用は難しい。 4) 未就学児の利用は保護者と一緒ということになり、平日の利用は考えにくい。 5) 勤労者の平日昼間利用は限られている。 6) 現状図書館利用は高齢者が比較的多いが、高齢者で、自動車に乗らない・免許返納者が、デマンドタクシーでどれくらい利用してくれるか。高齢者のデマンドタクシー利用の実態はよくわからないが、毎日の買い物でも「とくし丸」を利用している現状がある。高齢者の利用は減ることが考えられる。 （2）徒歩利用できる市民は極めて少ない （1）から、嘉平山では、市の中心部から遠く徒歩での利用が難しいので、自動車が利用できない世代の利用に問題がある。「多世代交流拠点」（高齢者や子ども・子育て世代、学生などの若者にとっても利用しやすく、魅力的な施設とし、幅広い世代の方々が集い、交流できる施設）にはなり得ないことは明白である。地域内の方々が訪れることができる施設にはなるかもしれないが、気軽という点と地域外（近隣市町村）の方々の利用は考えにくい。 （3）先進地視察は参考にならない 新発田市や岩手県オガールイン紫波は施設がいずれも市中心部で J R 駅近くに立地している。人口規模や周辺地域の条件も違い参考にはならない。 （4）屋外施設（子どもの遊び場）とは何か 屋外施設は、山が近いのでクマ・サルなどの野生動物の接近が考えられる。 2 建設費用及び維持管理費等と効果について （1）事業費維持費の将来負担 事業費 4 5 億円程度、135,000 平方メートルの施設の年間維持費はどれくらいになると予測しているのか。胎内市より人口規模の大きい糸魚川市では、子育て支援複合施設（建設費 14 億 8 千万円、敷地 1,500 平方メートルで年間約 5 千万円の維持費）の建設計画を中止し計画を見直すことにしたというが、本市の事業では将来世代にどれくらいの負担を残すと予測しているのか。

	（２）費用対効果 基本計画の将来（2045 年）人口減少予測は楽観的過ぎる。黒川・中条の合併時平成 17 年（2005 年）から 20 年で約 6,000 人減少した。今後 20 年が 5,208 人減少では済まないだろうし、2045 年は 2 万人を割ることも十分考えられる。「あるにこしたことはない施設」又は、「あったらいい施設」建設は、は過去の「箱物行政」である。胎内市民の人口分布を考慮しない自動車利用を前提とした利用しづらい郊外にわざわざ施設を作る意味が分からない。 人口規模に見合った「身の丈に合った施設」や「なくてはならない施設」（上下水道や道路、橋などインフラ）の老朽化対策・維持を優先すべきであり、現施設の修復等でも目的は達成できる。 （３）現施設（図書館や公民館）の有効利活用 公民館機能・図書館機能・交流施設機能を集約のメリットもあるが、既存施設と利用目的が重なるものもあり無駄である。スポーツ的な活動はプレスポや総合グラウンド近辺の施設、サンビレッジ、廃校後の体育施設などが利用できる。音楽的な活動や美術芸術的活動は産業文化会館や（修復した）公民館が利用できる。既存施設の利用促進を図る方が費用の面から言っても得策であると考えられる。 3 代替案 （１）現公民館、旧町体育館付近は近隣畑地を含め、統合中学校の施設との連携が図りやすい。 （２）現図書館付近も駐車スペースの確保を考えたとき、施設を 2 階以上にし、1 階部分は入口のみとし残りを駐車場にすれば冬季の除雪対策になり、洪水時の避難所としても有効であると考えられる。
--	--

2 回答

【建設候補地について】（関係する質問：上記全て） ※再掲

胎内市生涯学習施設整備基本構想の策定にあたっては、当時の検討委員会やワークショップを通じて、市民代表の皆様からいただいたご意見を踏まえ、図書館や公民館の機能に加え、多世代や子育て世代の全市民を対象とする施設として検討を進めてきております。

建設候補地につきましては、駅周辺や旧中条体育館跡地といった案も挙がりましたが、たとえば駅周辺は敷地の広さを含め、適切な土地の確保が難しいこと、また旧中条町体育館跡地は今後の統合中学校の建設候補地としても検討されていることなどから、様々な条件を総合的に勘案し、現時点では関沢地内（通称：嘉平山）をあくまでも予定地ではなく、有力候補地として挙げているところです。※基本計画（案）18 頁、「5 建設候補地」参照

建設候補地に関しては、市民の皆様からいただいた多様なご意見を今後も丁寧に受け止めながら、専門的な知見も踏まえて、できる限り多くの皆様にご利用いただけるよう、望ましい方向性を見出してまいりたいと思います。

なお、今後、市民説明会を開催し、市民の皆様からの様々なご意見に耳を傾けながら多様な意見を望ましい方向に集約すべく、市に対して答申を行っていただく組織を立ち上げる予定としております。

【徒歩で行ける場所について】（関係する質問：上記全て） ※再掲

生涯学習施設は地区住民に限らず、市内全域の市民の皆様にご利用いただくことを前提としております。全ての地域から徒歩でお越しいただけるわけではありませんが、できる限り多くの方がアクセスしやすい立地となるよう検討を進めてまいります。

また、「のれんす号」の活用に加え、定期バスの運行についても検討してまいりたいと考えております。

なお、生涯学習施設は市民全体の施設として位置づけておりますが、現在の図書館と中央公民館は、これまで主たる利用の実相としては、中条地区の皆様としての役割を果たしてきたものと受け止めており、中条地区においても、乙、築地、黒川地区の地区公民館等と同様に、図書室を併設した公民館的な機能については、既存施設の活用等を含め、その機能を維持していくことを基本方針としております。

【概算事業費について】（関係する質問：上記全て） ※再掲

基本計画（案）の中でもお示ししているとおり、概算事業費は造成費等の整備費を含めた建設コストの最大値として設定しております。したがいまして、今後は、設計者のアイデアや提案を柔軟に取り入れながら、可能な限りの効率化・縮小化を図り、コストの削減に努めてまいります。

【財政状況について】（関係する質問：上記全て） ※再掲

費用面につきましては、可能な限り施設の効率化及び規模の適正化を図り、コストの低減に努めてまいります。

また、財源については、国の補助金等の活用を図るとともに、4 年後の運転開始が予定されている洋上風力発電事業から生じる、安定的かつ長期的な固定資産税収についても少なからぬ財源確保に資することが見込まれております。

【建設規模について】（関係する質問：上記全て） ※再掲

基本計画（案）に記載されている延床面積は、基本構想で示すコンセプトに基づく想定面積の最大値であり、今後は設計者のアイデアや提案を柔軟に取り入れつつ、機能性や快適性を確保しながら、過大とならないよう十分に配慮し、コンパクトで実用的な施設を目指してまいります。

【複合施設について】（関係する質問：上記全て） ※再掲

子ども・子育て世代や多世代交流を促進する交流施設としての機能も加え、公民館機能、図書館機能、多世代交流の場という 3 つの役割を担う複合施設の整備を目指していきたいと考えております。

検討委員会やワークショップを通じて、市民の代表の方からの意見を踏まえ、複合施設として整備することで、相互の連携を深め、市民の学びや課題解決を支援する、効率的かつ効果的な環境を整えてまいりたいと考えております。

【その他ご意見について】（関係する質問：上記全て）

その他いただいた貴重なご意見は、今後の検討や運営の参考とさせていただきます。